

ハードディスク・SSDコピーソフトウェア

ファイナル

# ハードディスク入れ替え 15 plus™

ユーザーズマニュアル



## 商標・著作権

ファイナルハードディスク入れ替えはAOSテクノロジーズ株式会社の日本における商標です。

Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

その他の社名、ブランド名及び製品名は、各所有者の商標または登録商標です。

本ソフトウェア（本ソフトウェアに組み込まれたイメージ、写真、アニメーション、ビデオ、音声、音楽、テキスト、アプレット、その他を含む）、付属のマニュアルなどの文書、および本ソフトウェアの複製物についての著作権は、AOSテクノロジーズ株式会社またはその認定サプライヤーが有するもので本ソフトウェアは著作権法および国際条約の規定によって保護されています。本ソフトウェアのソースコードプログラムの著作権は、Challenger Backup Solutions, LLCが所有します。

『ファイナルハードディスク入れ替え』の日本語版開発・販売はAOSテクノロジーズ株式会社です。

AOSテクノロジーズ株式会社

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-1-5 メトロシティ神谷町5F

ホームページ： <http://www.finaldata.jp/>

Eメール： [irekae@aos.com](mailto:irekae@aos.com)

# はじめに

このたびは、「ファイナルハードディスク入れ替え 15 plus (以下、「本ソフトウェア」)をご購入くださりまして、誠にありがとうございます。

本ソフトウェアは、システムドライブを新しいハードディスクに簡単に移行したり、ディザスタリカバリ (障害復旧) のためにバックアップを行なえるように開発された製品です。

本ソフトウェアは、使用許諾の合意書に基づいて提供されるもので、合意書の条項に従う場合のみ使用することができます。本ソフトウェアには、コンピュータソフトウェア、およびそれに関連した媒体、ならびに印刷物 (マニュアルなどの文書)、「オンライン」または電子文書が含まれることもあります。

本書に記載された内容は情報の提供のみを目的としており、予告なしに変更されることがあります。

## 本ソフトウェアの特長

本ソフトウェアを使用すると、オペレーティングシステム(以下、「OS」)、アプリケーション、およびユーザーデータのあるハードディスクを、他のハードディスクにすばやく簡単にコピーできます。そのコピー先のハードディスクを今までのハードディスクと交換すれば、今までどおり、新しいハードディスクからOSを起動できます。

- システムディスク (現在の起動ディスク) を別のハードディスクに丸ごとコピーできます。これにより、現在のシステムディスクをより大きなサイズのハードディスクに交換することができます。
- システムディスクの起動可能なバックアップを作成できます。これにより、ハードディスクがコンピュータウイルスによって障害を受けたり、物理的に破損してしまった場合などに、破損したハードディスクを本ソフトウェアでコピー (バックアップ) したハードディスクに入れ替えることで、ディザスタリカバリ (障害復旧) に用いることができます。
- 現在のディスクの整合性を保ちながら、隠しパーティション (リカバリ用パーティションや診断用パーティション) も含めたシステムディスク全体をコピーできます。
- 現在使用しているハードディスクよりも容量の小さいハードディスクやSSDへコピーすることができます。
- 本ソフトウェアは、PCにインストールする必要はありません。
- Windowsが動作するPCで、CDドライブが搭載されていれば、本ソフトウェアのWindows Preinstallation Environment版 (以下、「Windows PE版」) でWindows以外のシステムディスクでもコピーできます。
- CDドライブを搭載していないPCでも、USBメモリで起動して本ソフトウェアのWindows PE版でコピーできます。ただし、USBメモリにWindows PE版をコピーするために、CDドライブが搭載 (または接続) されているPCが必要です。なお、CD起動版ではUSBメモリにWindows PE版をコピーする機能がないため、USBメモリからWindows PE版を起動することはできません。

## 本書の構成と読みかた

本書は、次のように構成されています。

### ▶ 準備

本ソフトウェアを使用するために必要な環境や、ご使用にあたっての制限事項などが記載されています。

本ソフトウェアをご使用になる前に必ずお読みください。

### ▶ 実行

ユーザーの環境に応じたコピー処理の流れと、本ソフトウェアの操作方法が記載されています。操作方法は、Windowsが動作しているPCでコピーする場合（Windows版）、本製品同梱のCD-ROMで起動してWindowsが動作していないPCでコピーする場合、CDドライブが搭載されていないPCでコピーする場合の3つに分けて記載されています。

ユーザーの環境に応じて、必要なページをお読みください。

### ▶ 付録

各種の資料などが記載されています。

必要に応じてお読みください。

# 目次

## はじめに 1

- 本ソフトウェアの特長 2
- 本書の構成と読みかた 3

## 準備 6

- 必要なシステム 6
- 本ソフトウェアが対応しているハードディスク 7
  - 対応ハードディスク 7
  - 対応EFIマザーボード 8
  - 非対応ハードディスクおよびPC本体 8
- 作業を始める前に 9
  - Step 1 PCを確認する 9
  - Step 2 実行前に確認する 10
  - Step 3 PCを準備する 10
  - Step 4 実行時の注意事項 11
  - Step 5 Windows PE版を使用する場合の制限事項 12

## 実行 13

- ハードディスク入れ替え作業の概要 13
  - ▶ノートPCの場合 13
  - ▶デスクトップPCの場合 14
- 本ソフトウェアの使い分けかた 16
- ハードディスクのコピー作業の流れ 17
- Windows版を起動する 18
  - ▶Microsoft .NET Framework 4がインストールされていない場合は 20
- Windows PE版を起動する 22
- 起動用USBメモリを作成する 25
  - ▶[起動用USBメモリを作成する]をクリックして作成する 25
  - ▶USBforUEFI.exeから作成する 28

コピー元/コピー先ハードディスクを指定する	32
▶ Windows 版でドライブを指定するときは	32
▶ Windows PE 版でドライブを指定するときは	34
除外するファイルやフォルダーを指定する	35
パーティションを変更する	37
▶ パーティションサイズを変更するときは	38
▶ パーティションを削除するときは	39
▶ 新しいパーティションを作成するときは	39
コピーを実行する	41

## 付 録

44

Advanced formatについて	44
▶ Advanced Formatとは	44
▶ Windows XPでの問題点	44
GUID パーティションテーブル(GPT)について	42
▶ GUIDパーティションテーブル(GPT)とは	45
▶ GPT ディスクの起動	45
うまくいかないときは	46
本製品の使用について	50
索引	52
技術サポート情報	53
▶ よくある質問と回答集	53
▶ オンラインユーザー登録	53
▶ アップデートプログラム	53
▶ 技術サポート	54

# 準備

## 必要なシステム

本ソフトウェアを使用するためには、以下のシステムが必要になります。

PC本体およびOS	<ul style="list-style-type: none"><li>●PC/AT互換機</li><li>●日本語版 Windows XP (Service Pack 2以上)、Windows Vista、Windows 7、およびWindows 8/8.1 (XPを除き64bit版対応)</li></ul> <p>CD起動版を使用する場合、上記OS以外でも動作しますが、コピー先のハードディスクで起動できるのは上記OSに限られます。</p>
メモリ	<ul style="list-style-type: none"><li>●上記OSが正常に動作し、かつ256MB以上(1GB以上推奨)</li><li>●Windows PE版またはCD起動版を使用する場合は、768MB以上(1GB以上推奨)</li></ul>
ハードディスク	<ul style="list-style-type: none"><li>●80MB以上の空き容量(プログラム展開用)</li><li>●下記Microsoft .NET Framework 4のインストールに、別途100MBの空き容量が必要になります。 ※既にインストール済みの場合は不要です</li><li>●UEFIシステムで起動可能なUSBメモリを作成するには、Windows ADKのインストールが必要になり、その際に約5GB以上の空き容量が必要になります。 ※UEFIシステムでない場合は不要です</li></ul>
ディスプレイ	<ul style="list-style-type: none"><li>●解像度:800×600(SVGA)以上</li><li>●色数:256色以上</li></ul>
その他のソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"><li>●Microsoft .NET Framework 4 (自動的にダウンロードされます。ダウンロードにはインターネット接続が必要になります。)</li><li>●Windows ADK(必要な時にダウンロードされます。ダウンロードにはインターネット接続が必要になります。)</li></ul>



## 本ソフトウェアが対応しているハードディスク

本ソフトウェアが対応しているハードディスクと対応していないハードディスクは次のとおりです。

### 対応ハードディスク

本ソフトウェアは、以下のインタフェースを持つハードディスクおよびディスクの種類に対応しています。

インタフェース	IDE、SATA、eSATA、USB、IEEE 1394 (iLink、Firewire)、SCSI、PCMCIA
ディスクの種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ハードウェアRAID</li> <li>●GUIDパーティションテーブル(GPT)対応</li> <li>●Solid State Drive(以下、「SSD」)</li> <li>●Advanced Format (1セクタあたり4096バイトのサイズを持つハードディスク)に対応(Windows XPを除く)</li> </ul>



• 本書では、「ハードディスク」と「SSD」をまとめて「ハードディスク」と呼びます。



#### 新しいハードディスクを選ぶときは

新しいハードディスク/SSDは、筐体サイズ(3.5インチ/2.5インチなど)とインタフェース(パラレルATA/シリアルATAなど)で選択します。

また、主なハードディスク/SSDメーカーのWebサイトには、PCのモデルに対応した製品を検索できるWebページが用意されていますので参考にしてください。

《例》

- バッファロー: <http://buffalo.jp/search/pc/>
- I/Oデータ: <http://www.iodata.jp/pio/>

## 対応EFIマザーボード

---

GUIDパーティションテーブル (GPT) を採用したハードディスクをコピーして、Windowsを起動できるマザーボードは次のとおりです。

- GIGABYTE 製マザーボード
- ASUS 製マザーボード
- MSI 製マザーボード
- ASRock 製マザーボード
- Intel 製マザーボード

※すべてEFI(UEFI)対応のものに限られます。

## 非対応ハードディスクおよびPC本体

---

次のハードディスクまたはPC本体では、本ソフトウェアは使用できません。

- ダイナミックディスク
- ソフトウェアRAID
- 使用しているOSがWindows XPで、コピー先がAdvanced Formatのハードディスク
- マルチ(デュアル)ブート環境
- WindowsがC:ドライブ以外にインストールされているハードディスク
- Windows XP/Vista/7/8 標準以外のブートローダを使用しているハードディスク
- HPA(Hidden Protected Area)が含まれているハードディスク
- Advanced Format以外の512バイトでないセクタサイズ (ハードディスクツールを使用したカスタムセクタサイズ)
- ディスク全体が暗号化されているハードディスク
- 東芝製PCのうち、「東芝RAID」または「東芝ハードディスクプロテクション」を搭載した機種

## 作業を始める前に

### Step 1 PCを確認する

本ソフトウェアのご使用には次の制限があります。ご使用前にご確認ください。

- ハードディスク/SSDが交換できる機種がサポートされます。タブレット端末やウルトラブックなど、内蔵ハードディスク/SSDの取り外しが不可能なPCには対応しません。
- 現在のシステムディスクと異なるデバイスインターフェースを持つハードディスク（例：IDEからSATAなど）への入れ替えは推奨されません。コピー先のハードディスクで起動しない可能性があります。
- 一部の古いPCでは、大容量のハードディスクを認識できない場合があります。大容量のハードディスクに交換する場合は、お使いのPCが対応していることを確認してください。特に137GB未満のハードディスクをより大きなハードディスクに交換する際は注意してください。
- GPTディスクの変換は行いません。非GPTディスクのコピーを行うと、コピー先があらかじめGPTでフォーマットされていても、コピー後は非GPTディスクとなります。そのため2TBを超えるハードディスクへコピーする際は、非GPTディスクの限度である2TBまで認識されるようになります。コピー元がGPTディスク場合は、コピー先ディスクもそのままGPTディスクとなりますので、2TB以上を認識可能です。
- Windows XPのシステムドライブは、Advanced Formatのハードディスクにはコピーできません。
- DELL製PCで「Media Direct」がインストールされた機種は、新しいハードディスクで起動したときに「Media Direct」ボタンで「Media Direct」を起動できなくなります。
- リカバリパーティションもコピーされますが、PCによってはコピー先ハードディ

スクで正しくリカバリできない場合があります。ディスクを入れ替える前に、リカバリーディスクを作成しておくのが安全です。リカバリーディスクの作成方法は、PCのマニュアルをご確認ください。

- 本ソフトウェアのCD-ROMからWindows PE版を使用する場合は、CDドライブが搭載されている必要があります。
- CDドライブが搭載されていないPCでWindows PE版を使用する場合には、Windows PE版起動用のUSBメモリを作成できます。ただし、コピーするシステムディスクのPCにはUSBインターフェースがあり、USBメモリから起動できる必要があります。また、コピーするPCとは別に、CDドライブとUSBインターフェースのあるPCが必要です。なお、CD起動版ではUSBメモリにWindows PE版をコピーする機能がないため、USBメモリからWindows PE版を起動することはできません。
- コピー先のハードディスクの容量が小さく、Cドライブにコピーするデータのほかに十分な空き容量を確保できない場合、Cドライブより後方のパーティションがコピーされないことがあります。

## Step 2 実行前に確認する

---

本ソフトウェアの実行前に、次の事項をご確認ください。

- PCによっては、内蔵のハードディスクを付け替えるとメーカー保証を受けることができなくなる場合があります。ハードディスクの入れ替えは、お客様の責任のもとで行ってください。
- 本ソフトウェアの使用には、ローカルの管理者権限(Administrator)が必要です。
- 本ソフトウェアはシステムディスクのコピーを行いますので、コピー先ハードディスクとして別に内蔵可能なハードディスクが必要です。

## Step 3 PCを準備する

---

本ソフトウェアを実行する前に、次の作業を行ってください。

- コピー元ハードディスクに不良セクタがあると、正常にコピーができない場合があります。Windowsの「チェックディスク」などを実行して、システムディスク(コピー元)を正常な状態にしてください。
- Windows Updateによって自動的にPCが再起動されることを防ぐため、コピー開始前にWindows Updateを実行して最新の状態にしてください。また、アップデート完了後、インターネット接続を切断してください。
- コピー処理中に省電力モードに移行しないように、省電力設定をオフにしてください。
- 暗号化されているファイルは、復号化してください。暗号化されたファイルは正しくコピーできないか、コピーできても新しいハードディスクでは開けなくなります。
- セキュリティソフトやデスクトップ検索ソフトなど、タスクトレイに常駐しているソフトウェアを一時的に終了させてください。  
実行中のソフトウェアがあると、一部のファイルがコピーされず、コピー先ハードディスクから起動できなくなることがあります。終了方法については、各ソフトウェアのマニュアルやドキュメントをご覧ください。  
なお、たとえばシマンテック社のノートン・インターネットセキュリティなどのセキュリティソフトをご利用の場合、一時停止しても関連プログラムが動作し続け、ファイルのコピーが妨げられる場合があります。その場合には、Windows PE版を使用してください。

## Step 4 実行時の注意事項

本ソフトウェアの実行時には次の事柄にご注意ください。

- コピー作業中に周辺機器を接続/取り外ししないでください。
- Windows上で認識できないパーティションおよびドライブ文字のないパーティションは、セクタ単位でコピーされます。このため、通常のパーティションに比べて時間がかかります。
- Windows上で認識できないパーティションおよびドライブ文字のないパーティ

ションのパーティションサイズを変更してコピーすることはできません。

- FAT16およびFAT32のパーティションは、サイズを拡張してコピーすることはできません。
- コピー元ハードディスクに拡張パーティションが含まれている場合、5つ以上のパーティションを作成できないことがあります。

## Step 5 Windows PE版を使用する場合の制限事項

Windows PE版を使用するときには、次の点にご注意ください。

- Windows PE版は、起動してから72時間後に、予告なく再起動されます。起動時間にご注意ください。
- Windows PE版は、メモリが768MB以下のPCでは正しく実行できません。その場合、メモリを768MB以上に増設するか、Windows版をご使用ください。
- コンピュータのBIOSがCD起動(CD boot)に設定されていないとCDからの起動ができません。BIOSの設定で、CD起動ができるように設定してあることをご確認ください。BIOSの設定を確認・変更する方法は、コンピュータの取扱説明書やコンピュータメーカーのサポートにお問い合わせください。
- BIOSの設定で省電力モードが有効になっている場合、コピー中に画面表示が省電力モードで暗くなったり、ハードディスクが止まったりすることがあります。あらかじめ省電力モードを無効の設定にしてから作業を開始してください。
- Windows PE版では、USB 3.0の端子を使用できません。新しいハードディスクやマウスなどは、USB 2.0端子に接続してください。
- Windows PE版では、32GBに満たないハードディスクを認識できません。32GB未満のハードディスクをコピー元/コピー先としてご利用になる場合は、Windows版をご使用ください。

# 実行

## ハードディスク入れ替え作業の概要

ハードディスクの入れ替え作業の概要を示します。

### ▶ノートPCの場合

1



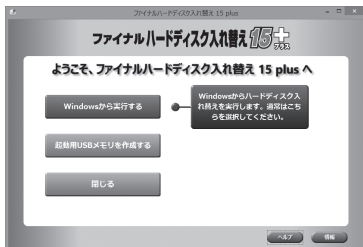
新しいハードディスクを外付け用ハードディスクケースに取り付けます。

2



USBケーブルでPCに接続します

3



本ソフトウェアで、現在のシステムディスク（コピー元ハードディスク）の内容を新しいハードディスク（コピー先ハードディスク）にコピーします。

4



PCの電源をオフにし、古いハードディスクを取り外し、新しいハードディスクを取り付けます。



- 外付けハードディスクケースおよびUSBケーブルは、市販品を利用してください。USBバスパワー駆動（USBケーブルのみで動作するもの）の機器は電力が不足する可能性があるため、ACアダプターを用いて駆動するものを推奨します。

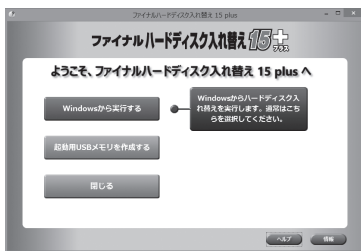
## ▶デスクトップPCの場合

1



PC本体のカバーを外し、マザーボードからのケーブルに新しいハードディスクを接続します。

2



本ソフトウェアで、現在のシステムディスク（コピー元ハードディスク）の内容を新しいハードディスク（コピー先ハードディスク）にコピーします。



## 3



PCの電源をオフにし、古いハードディスクを取り外し、新しいハードディスクを取り付けます。



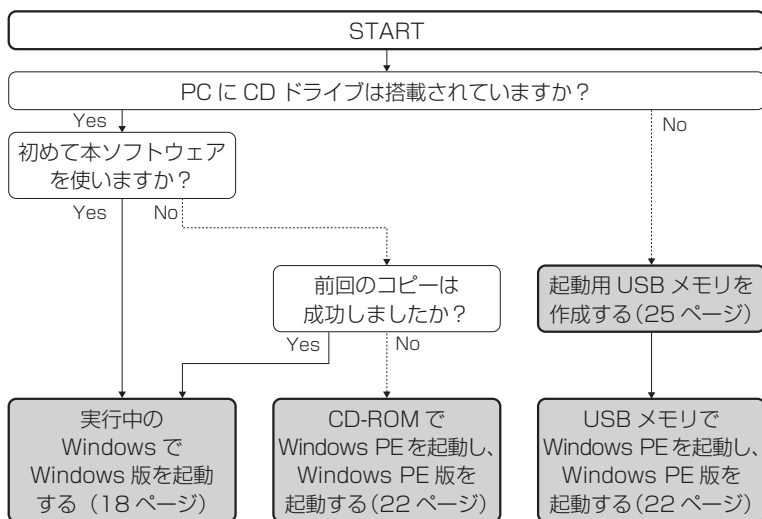
- デスクトップPCでも、ノートPCの場合と同様に、USBインターフェースで接続してコピーすることもできます。
- ハードディスクをIDEまたはSCSIで接続している場合、マスタ/スレーブのジャンパピンの変更が必要な場合があります。  
新しいハードディスクを“スレーブ”として接続してコピーした場合、新しいハードディスクでPCを起動する際には、必ずジャンパピンを“マスタ”に変更してください。ジャンパピンの設定方法は、通常、ハードディスク本体または取扱説明書に記載されています。不明な場合は、ベンダーにお尋ねください。

## 本ソフトウェアの使い分けかた

本ソフトウェアには、Windows 版とWindows PE 版があります (CD 起動版は、Windows PE 版のみです)。

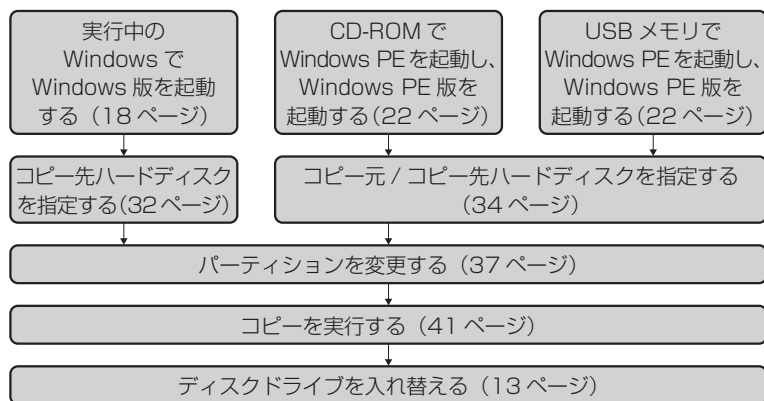
Windows 版は、現在実行されているWindowsの下で実行されます。また、Windows PE 版は、本製品のCD-ROMから起動されたWindows PEの下で実行されます。これは、Windows 版が正しく実行されなかった (正しくコピーされなかった) 場合に使用します。

なお、Windows PE 版は、CDドライブが搭載されていないPCのために、USBメモリにコピーして実行することもできます (CD 起動版を除く)。



## ハードディスクのコピー作業の流れ

本ソフトウェアによるシステムディスクのコピー作業の流れを示します。



- Windows 版では、自動的に適切なハードディスクが選択されますので、ほとんどの場合、コピー先ハードディスクの選択は不要です。コピー元ハードディスクは変更できません。

## Windows 版を起動する

本ソフトウェアのWindows版は、次の手順で起動します。



- CD 起動版にWindows版はありません。Windows PE版を起動する (22 ページ)を参照してください。
- 作業を始める前に、必ず「作業を始める前に」(9 ページ)に記載されている事項を確認してください。
- コピー処理に使用しないハードディスクやリムーバブルディスクは、取り外しておくことをお勧めします。
- コピー先ハードディスクを内蔵デバイスインタフェースに接続する場合は、PCの起動前に接続してください。
- コピー先ハードディスクをホットプラグ対応デバイスインタフェース (USB、IEEE1394、eSATA、PCMCIA)に接続する場合は、Windowsへのログイン後に接続してください。

### 1 Windows を起動します。

### 2 管理者権限のあるユーザーでログインします。

### 3 本ソフトウェアのCD-ROMをCDドライブに挿入します。

本ソフトウェアが自動的に起動され、確認のメッセージが表示されます。

Windows Vista/7/8では [自動再生] ダイアログが表示されます。「setup.exeの実行」をクリックしてください。



- 自動的に実行されない場合は、[スタート] メニューの [マイ コンピュータ] (Windows XP) または [コンピュータ] (Windows Vista/7) をクリックし、CD-ROM内の [setup.exe] をダブルクリックしてください。Windows 8の場合は、Win キーを押しながらEキーを押すと[コンピュータ]を表示できます。

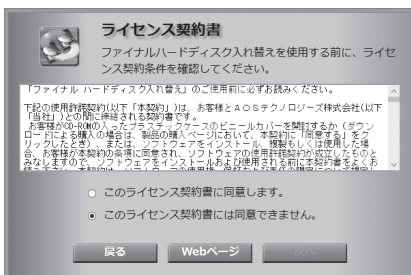
## 4 [はい]をクリックします。



必要なプログラムが一時フォルダに展開され、ライセンス使用許諾契約書が表示されます。

なお、Windows XP/Vista/7で実行する際にMicrosoft .NET Framework 4がインストールされていない場合は、ライセンス使用許諾契約書が表示される前にインストールされます。詳しくは、「Microsoft .NET Framework 4がインストールされていない場合は」(20ページ)をご覧ください。

## 5 ライセンス使用許諾契約書をお読みのうえ、「このライセンス契約書に同意します」のラジオボタンをクリックします。



ライセンスキーの入力欄が表示されます。

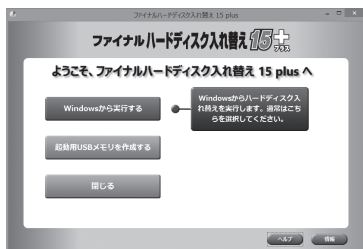
## 6 ライセンスキーを入力し、[次へ]をクリックします。



本ソフトウェアが起動されメニュー画面が表示されます。

なお、ライセンスキーは、パッケージでご購入の場合は、ライセンスキーカードに記載されています。また、ダウンロードでご購入の場合は、ご購入時に登録されたメールアドレスにメールでお送りしています。

## 7 [Windowsから実行する]をクリックします。



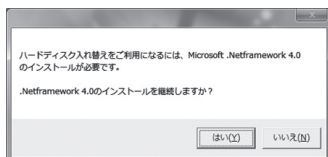
PCに接続されているハードディスクがスキャンされ、利用可能なハードディスクが表示されます。

「コピー元/コピー先ハードディスクを指定する」(32ページ)に進みます。

## ▶ Microsoft .NET Framework 4がインストールされていない場合は

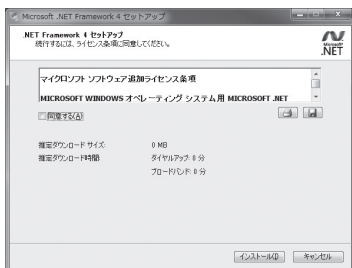
Windows XP/Vista/7で実行する際に、PCにMicrosoft .NET Framework 4がインストールされていない場合、本ソフトウェアからダウンロード・インストールする画面が表示されます。ダウンロードにはインターネット接続が必要です。

## 1 [はい]をクリックします。



Microsoft .NET Framework 4 セットアップ画面が表示されます。

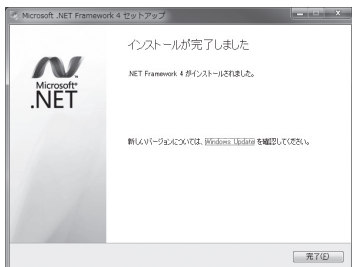
## 2 マイクロソフト ソフトウェア追加ライセンス条項をお読みのうえ、「同意する」にチェックを入れて【インストール】をクリックします。



インストールが開始されます。

インストールが完了すると、メッセージが表示されます。

## 3 【完了】をクリックします。



本ソフトウェアのライセンス使用許諾契約書が表示されます。

19ページの **5** 以降を実行して、本ソフトウェア (Windows 版) を起動します。

## Windows PE版を起動する

Windows版で正しくコピーができなかった場合、同梱CD-ROMでPCを起動し、Windows PE版を使用します。

また、CDドライブが搭載されていないPCでは、本製品で作成した起動用USBメモリを作成し、USBメモリから起動してWindows PE版を使用します。



- 起動用USBメモリの作成方法については、「起動用USBメモリを作成する」(25ページ)をご覧ください。
- CD-ROMやUSBメモリからPCを起動するためには、BIOSでCD/DVDまたはUSBメモリの起動順位を最優先に設定しておく必要があります。



### 使用前に準備・確認してください

- PCがEFI (UEFI) システムの場合、CDからWindows PE版を起動することはできません。起動用USBメモリを作成(25ページ)して、USBメモリからWindows PE版を起動してください。
- BIOSの設定で省電力モードが有効になっている場合、コピー中に画面表示が省電力モードで暗くなったり、ハードディスクが停まったりすることがあります。あらかじめ省電力モードを無効の設定にしてから作業を開始してください。
- 768MB以下のRAM(メモリ)が搭載されているコンピュータでWindows PE版を起動した場合、本ソフトウェアが正しく実行できないことがあります。その場合、RAMを768MB以上に増設するか、Windows版をご使用ください。
- Windows PEは、起動してから72時間後に予告なく再起動されます。
- Windows PE版では、USB 3.0の端子を使用できません。新しいハードディスクやマウスなどは、USB 2.0端子に接続してください。
- Windows PE版では、32GBに満たないハードディスクを認識できません。32GB未満のハードディスクをコピー元/コピー先としてご利用になる場合は、Windows版をご使用ください。



1 PCの電源をオンにします。

2 同梱CD-ROMでPCを起動する場合は、CD-ROMを挿入します。  
USBメモリで起動する場合は、起動用USBメモリを接続します。

Windows PE版が起動され、本ソフトウェアのライセンス使用許諾契約書が表示されます。



#### CD-ROMで起動する場合は

Windows PE版が起動される前に、確認のメッセージが表示されます。

キーボードのキーを1回押します。

```
Press any key to boot from CD or DVD. _
```

押すキーは何でもかまいません。

キーを押すと、起動処理が再開されます。



- 追加のドライバーを有効にするには、次のメッセージが表示されたときに、キーボードの「D」キーを押してください。  
追加ドライバーが組み込まれた状態で、Windows PE版が実行されます。

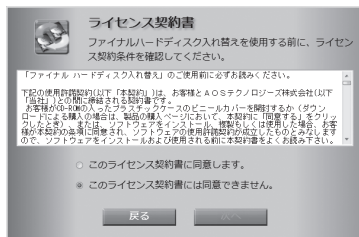
#### ドライバーの追加

```
"D"キーを押してドライバーを追加します。
```

```
3
```

ドライバーの追加には時間がかかります。ドライバーを追加しなかったときに認識できないハードディスクがあった場合にお試しください。

### 3 ライセンス使用許諾契約書をお読みのうえ、「このライセンス契約書に同意します」のラジオボタンをクリックします。



ライセンスキーの入力欄が表示されます。

### 4 ライセンスキーを入力し、[次へ]をクリックします。



本ソフトウェアが起動され、コピー元ハードディスクを選択する画面が表示されます。「コピー元/コピー先ハードディスクを指定する」(32ページ)に進みます。

なお、ライセンスキーは、パッケージでご購入の場合は、ライセンスキーカードに記載されています。また、ダウンロードでご購入の場合は、ご購入時に登録されたメールアドレスにメールでお送りしています。

## 起動用USBメモリを作成する

CDドライブが搭載されていないPCで、Windows PE版を使用してシステムディスクをコピーする場合には、本ソフトウェアのWindows PE版をUSBメモリから起動します。

起動用USBメモリの作成方法は2通りあります。

- お使いのパソコンがUEFIシステムでない場合は、本ソフトウェアのメニューから [起動用USBメモリを作成する] をクリックして作成(25ページ)します。
- お使いのパソコンがUEFIシステムの場合は、本ソフトウェア同梱の USBforUEFI.exe から作成(28ページ)します。



- コピー先のUSBメモリの内容はすべて削除されます。
- CD起動版では、起動用USBメモリを作成できません。

### ▶ [起動用USBメモリを作成する] をクリックして作成する

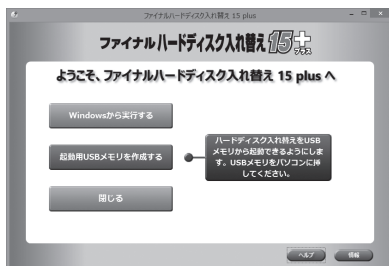


- 起動用USBメモリを作成するためには、CDドライブが搭載されているPCが必要です。
- 起動用とするUSBメモリは700MB以上の容量が必要です。
- コピー先のUSBメモリ以外の外部メディア (USBハードディスクやカードリーダーなど) は取り外しておいてください。

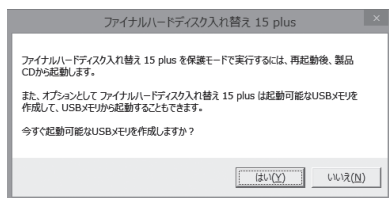
## 1 Windows版を起動します。

詳しくは、「Windows版を起動する」(18ページ)をご覧ください。

## 2 [起動用USBメモリを作成する]をクリックします。



## 3 [はい]をクリックします。



## 4 コピー先のUSBメモリを接続します。

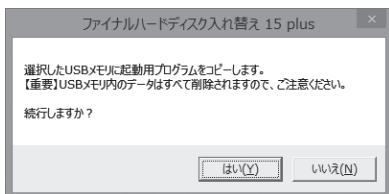
接続したUSBメモリの情報が表示されます。

## 5 [次へ]をクリックします。

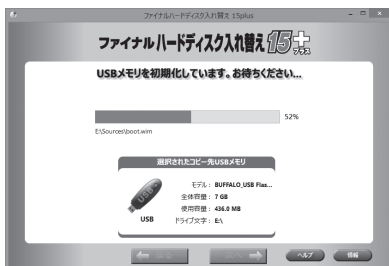


確認のメッセージが表示されます。

## 6 [はい]をクリックします。

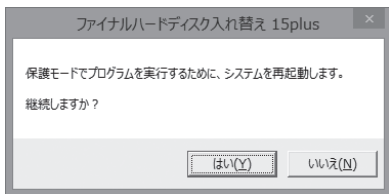


コピーが開始されます。



## 7 コピーが終了すると、次のメッセージが表示されます。

このパソコンで今すぐWindows PEで起動する場合は[はい]をクリックします。  
別のパソコンでWindows PEで起動する場合は[いいえ]をクリックします。



作成したUSBメモリでWindows PE版を起動する方法については、「Windows PE版を起動する」(22ページ)をご覧ください。

## ▶ USBforUEFI.exe から作成する

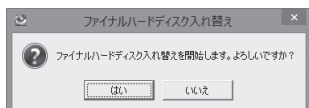


次の内容を確認してください

- コピー先のUSBメモリの内容はすべて削除されます。
- 起動用とするUSBメモリは700MB以上の容量が必要です。
- コピー先のUSBメモリ以外の外部メディア（USBハードディスクやカードリーダーなど）は取り外しておいてください。
- Windows ADKをインストールするために、ハードディスクに約5GB以上の空き容量が必要になります。

**1** 本ソフトウェアのCD-ROM、または同梱のUSBforUEFI.exe ファイルをダブルクリックします。

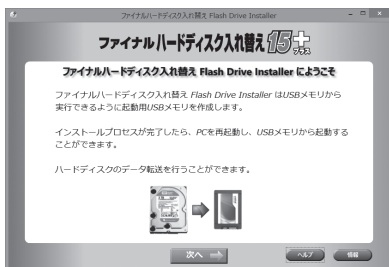
**2** **【はい】をクリックします。**



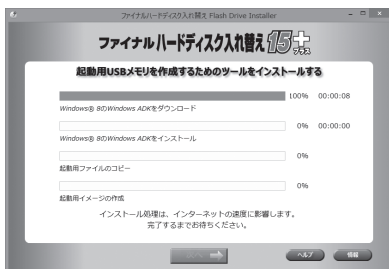
必要なプログラムが一時フォルダに展開されます。

なお、Windows XP/Vista/7で実行する際にMicrosoft .NET Framework 4がインストールされていない場合は、ダウンロード・インストールされます。詳しくは、「Microsoft .NET Framework 4がインストールされていない場合は」(20ページ)をご覧ください。

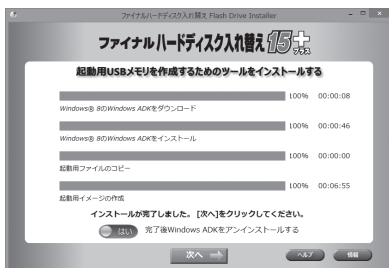
### 3 [次へ]をクリックします。



UEFIシステムで起動可能なUSBメモリを作成するために必要なWindows ADKをダウンロードしてインストールします。この作業はすべて自動で行われます。完了まで1時間以上かかることもあります。



### 4 Windows ADKのダウンロードとインストールが完了したら、[次へ]をクリックします。



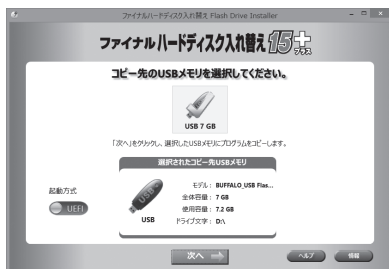


- [完了後 Windows ADK をアンインストールする] を「はい」にすると、起動用 USB メモリを作成した後に、この処理でインストールされた Windows ADK は、自動的にアンインストールされます。

## 5 コピー先の USB メモリを接続します。

接続した USB メモリの情報が表示されます。

## 6 [次へ] をクリックします。



確認のメッセージが表示されます。



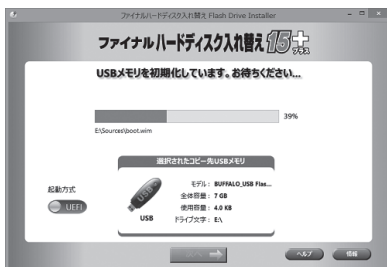
- UEFI システムで起動可能な USB メモリを作成する場合は、[起動方式] が「UEFI」になっていることを確認してください。

## 7 [はい] をクリックします。

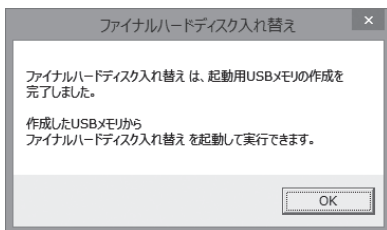




コピーが開始されます。



## 8 [OK]をクリックします。



## 9 [終了]をクリックします。

作成したUSBメモリでWindows PE版を起動する方法については、「Windows PE版を起動する」(22ページ)をご覧ください。

## コピー元/コピー先ハードディスクを指定する

コピー元およびコピー先のハードディスクを指定します。

### ▶ Windows 版でドライブを指定するときは

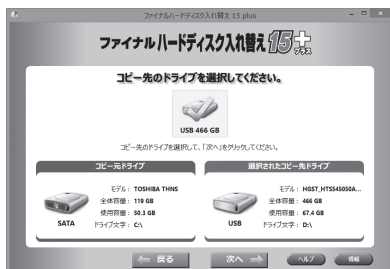


- コピー先ハードディスクのすべてのデータは削除されます。間違いのないように、十分に確認してください。



- 本ソフトウェアが起動されると、PCに接続されているハードディスクがスキャンされます。
- Windows 版では、コピー元ハードディスクはシステムディスク(現在の起動ディスク)となり、変更できません。また、コピー先ハードディスクは、自動的に選択されます。コピー先ハードディスクは、ユーザーが変更することもできます。
- 事故を防ぐため、コピーに無関係なハードディスクや外部メディアは取り外しておくことをおすすめします。

表示されているコピー元/コピー先ハードディスクを確認します。



正しければ[次へ]をクリックしてください。

コピー先のハードディスクが複数接続されている場合は、ハードディスクのアイコンを選択してから[次へ]をクリックしてください。



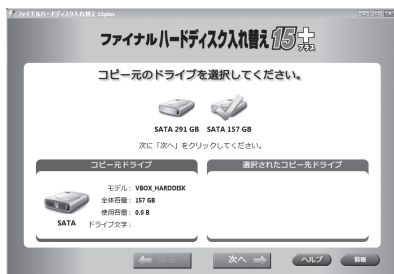
- 画面に表示される使用容量には、リカバリーパーティションやWindowsが認識できないパーティションは含まれていません。このため、十分な容量のあるディスクを選択しても容量不足の警告メッセージが表示される場合があります。
- コピー先ハードディスクに指定できるハードディスクが検出されていない場合は、[キャンセル]をクリックして本ソフトウェアを終了してください。その後、コピー先ハードディスクとするハードディスクを接続しなおしてください。

## ▶ Windows PE版でドライブを指定するときは



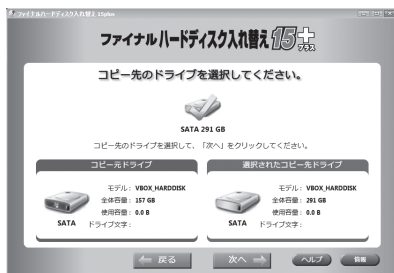
- Windows PE版ではコピー元の選択も行います。コピー先ハードディスクのすべてのデータは削除されますので、コピー元とコピー先を間違えないように十分に確認してください。

### 1 コピー元ハードディスクのアイコンをクリックします。



### 2 [次へ]をクリックします。

### 3 コピー先ハードディスクのアイコンをクリックします。



### 4 [戻る]をクリックします。

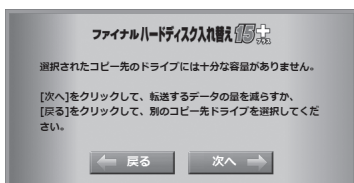


- コピー元またはコピー先ハードディスクが間違っていたときは、[戻る]をクリックして前の画面に戻り、選択しなおしてください。

## 除外するファイルやフォルダーを指定する

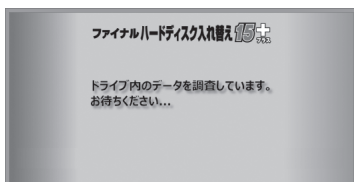
コピー先のハードディスクの容量が小さくてコピー元のデータをすべてコピーできない場合、特定のファイルやフォルダーをコピー対象から除外することができます。

### 1 次のメッセージが表示されたら[次へ]をクリックします。



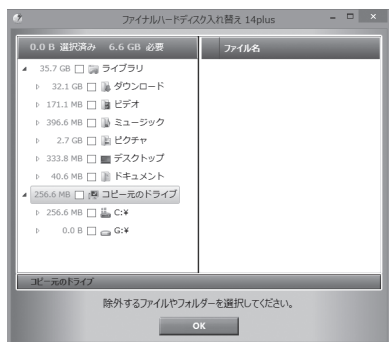
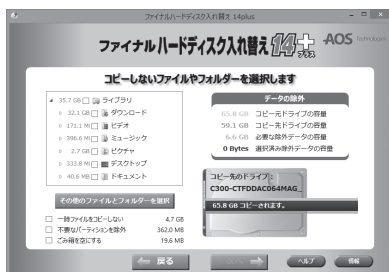
このメッセージが表示されない場合、コピー先のハードディスクには十分な容量があります。「パーティションを変更する」(37ページ)に進みます。

### 2 除外可能なファイルやフォルダーを調査しています。



- 調査の結果、ファイルやフォルダーを除外しても必要な空き容量が確保できない場合、選択したコピー先のハードディスクにはコピーできません。[戻る]をクリックして別のハードディスクを選択してください。

### 3 コピーしないファイルやフォルダーを選択する画面が表示されます。ライブラリの各項目、または「その他のファイルとフォルダーを選択」をクリックして、コピー先のハードディスクに収まるように選択してください。



- 必要な除外データの容量は、画面右に表示されています。この容量が0になるように選択してください。0未満にならないと[次へ]はクリックできません。
- ライブラリ内のマイドキュメントやマイピクチャなどの項目は、現在ログオン中のユーザーが対象です。Windows PE版を実行している場合は、ユーザー名がアルファベット順('Administrator'を除く)で最初となるユーザーが対象です。
- 不要なパーティションとは、通常のWindowsを起動する際に使用されないパーティション(ドライブ)を指し、主にリカバリー領域が該当します。「不要なパーティションを除外」を選択すると、コピー先のハードディスクでリカバリー領域を用いたWindowsのリカバリーを行うことができなくなります。なお、Windows PE版では「不要なパーティションを除外」は表示されません。

#### 4 選択したら、[次へ]をクリックして「パーティションを変更する」(37ページ)に進みます。

## パーティションを変更する

コピー先ハードディスクのパーティションを変更します。

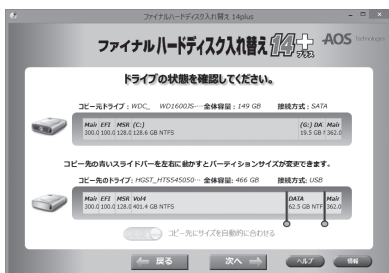
コピー先ハードディスクでは、パーティション数はコピー元ハードディスクと同じに自動的に設定されます。

それぞれのパーティションのサイズは、コピー先ハードディスクの容量に応じて自動的に拡張(または縮小)されます。



- パーティション数を変更すると、コピーが失敗したり、コピー先のハードディスクから起動できなくなる場合があります。特別に必要でないかぎり、本ソフトウェアで自動的に設定されたまままでのご使用をお勧めします。
- コピー先のハードディスクの容量が小さく、Cドライブにコピーするデータのほかに十分な空き容量を確保できない場合、Cドライブより後方のパーティションがコピーされないことがあります。

### 1 パーティションの追加、削除、またはサイズを変更します。





- パーティションのサイズの変更方法については「パーティションサイズを変更するときは」(38ページ)、パーティションの削除方法については「パーティションを削除するときは」(39ページ)、パーティションの作成方法については「新しいパーティションを作成するときは」(39ページ)をご覧ください。
- [次へ] をクリックする前に、各パーティションのサイズと使用容量をご確認ください。パーティションに対してマウスオーバーすると、使用容量を確認できます。

以下の例のように、空き容量に十分な余裕がない状態でコピーを行った場合、特にCDドライブはコピー先で起動した場合に動作に影響を与える可能性が高いため、少なくとも10GB以上の空き容量を確保することを推奨します。また、この例の場合、一時ファイルの増減など何らかの要因によってCDドライブの使用容量が変化して、空き容量が足りなくなり、コピーに失敗する可能性もあります。



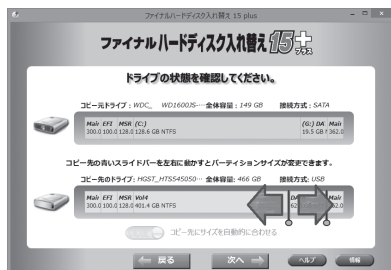
## 2 [次へ]をクリックします。



- 「コピー先にサイズを自動的に合わせる」にチェックマークをつけると、本ソフトウェアで自動的に設定された状態に戻ります。

### ▶パーティションサイズを変更するときは

青色で表示されているバーは位置を変更できます。このバー（スライドバー）をドラッグすると、パーティションのサイズを変更できます。



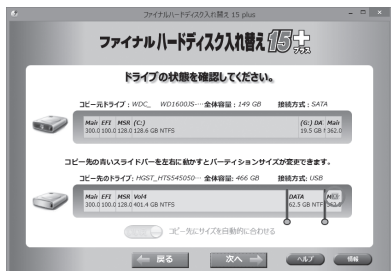




- Windowsで認識できないパーティションや、ドライブ文字のないパーティションのサイズは変更できません。
- FAT16/FAT32のパーティションにスライドバーは表示されません。これらのパーティションのサイズを変更する場合は、パーティションを削除した後で新しいパーティションを作成してください。

## ▶パーティションを削除するときは

最終パーティションにマウスカーソルを合わせると **X** が表示されます。これをクリックすると、そのパーティションが削除されます。



- 削除できるのは最終パーティションのみです。途中にあるパーティションは削除できません。
- パーティションを削除すると、他のパーティションのサイズがわずかに変更される場合があります。これはスライドバーの位置のアライメントを行っているためです。

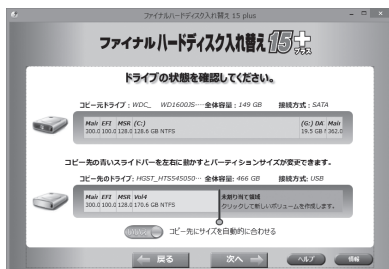
## ▶新しいパーティションを作成するときは

未割り当て領域がある場合には、そこに新しいパーティションを作成できます。



- 作成可能な最大パーティション数は、15です。
- コピー元に拡張パーティションがある場合、5つ以上のパーティションが作成できないことがあります。

## 1 未割り当て領域をクリックします。



ダイアログが表示されます。

## 2 ボリューム名を入力します。



初期状態では、未割り当て領域と同じサイズに設定されています。



- 未割り当て領域と同じサイズになるのはコピー元と同じ位置にあるパーティションのタイプがNTFSの場合に限ります。FAT16/FAT32の場合は、コピー元と同じサイズが初期状態となります。その他のパーティションのサイズは変更できないため、スライダは表示されません。

## 3 希望のサイズになるまで、スライダをドラッグします。

## 4 [OK]をクリックします。

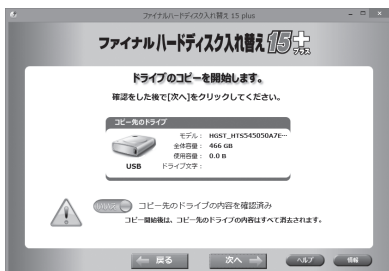
## コピーを実行する

コピー元ハードディスク（システムディスク）からコピー先ハードディスクへ実際にコピーします。



- コピーを開始すると、コピー先ハードディスクの内容はすべて削除されます。間違いのないことを十分に確認してください。

### 1 「コピー先のハードディスクの内容を確認済み」をクリックして「はい」にします。



### 2 [次へ]をクリックします。

コピーが開始されます。コピーの進捗状況は画面に表示されます。

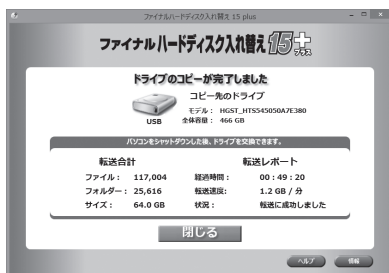
コピーが終了すると、メッセージが表示されます。





- コピー処理は、コピー先ハードディスクの初期化、フォーマット、データ転送の順に行われます。
- Windows で認識できないパーティションおよびドライブ文字のないパーティションは、セクタ単位でのコピーされます。このため、通常のパーティションに比べて時間がかかります。
- システム転送中の画面で「コピー終了後にシャットダウンする」を [はい] にすると、コピーが終了したらPCは自動的にシャットダウンされます。Windows PE 版を実行している場合は、「コピー終了後にシャットダウンする」は表示されません。

### 3 【閉じる】をクリックします。



本ソフトウェアは終了します。コピー先のディスクは起動可能な状態になり、現在のシステムディスクと取り替えて使用することができます。



- コピーが完了すると、デスクトップに次のフォルダーが作成されます。



このフォルダーには、本ソフトウェアのログが含まれています。弊社サポートから依頼があった場合に使用しますので消去しないでください。

### 4 PCをシャットダウンします。

## 5 コピー元ハードディスクとコピー先ハードディスクを交換します。

交換方法については、「ハードディスク入れ替え作業の概要」(13ページ)を参考にしてください。



- コピー先ハードディスクをすぐに使用しない場合でも、コピー先ハードディスクから起動できることを必ずご確認ください。

## Advanced format(について)

### ▶ Advanced Formatとは

Advanced Formatとは、従来の512バイトのセクタサイズを4096バイトに拡張したものです。これにより、ハードディスク内の無用なセクタギャップを減らし、ECC (誤り訂正符号) に使用される領域を小さくできます。一般的には、ハードディスク全体の10%程度の容量を節約することができます。

### ▶ Windows XPでの問題点

Advanced Formatでは、ハードディスク上の物理的セクタサイズは4096バイトとして扱います。さらに、従来のフォーマットとの互換性を維持するため、OSやデバイスコントローラから512バイトとしてアクセスできるようにエミュレーションされます。しかし、すべての条件で512バイト/セクタと同等に扱えるとは限りません。

Windows XPでは、Advanced Formatのハードディスクを使用すると互換性の問題が発生し、多くの場合、起動できないか、著しくパフォーマンスが低下します。これは、Windows XPでのシステムドライブのパーティション開始セクタ位置は、Windows Vista/7/8とは異なります。そのため、Advanced Formatのハードディスクとそうでないハードディスクの間にドライブ開始セクタ位置の誤差が生じるためです。

そのため、本ソフトウェアでは、Windows XPのシステムディスクをAdvanced Formatのハードディスクへコピーすることはサポート対象外としています。

なお、各ハードディスクの製造元が提供するパーティションアライメントツール(PAT)を使用するとWindows XPでAdvanced Formatのハードディスクを扱えるようになりますが、製造元によってその仕組みが異なるため、弊社ではサポートできません。

Windows Vista、Windows 7およびWindows 8では、ドライブ開始セクタ位置とAdvanced Formatの問題は解決されており、そのまま使用することができます。

## GUID パーティションテーブル(GPT)について

### ▶ GUIDパーティションテーブル(GPT)とは

GUIDパーティションテーブルを採用したハードディスク(以下、GPTディスク)は、従来のマスター ブートレコーダー(MBR)にかわるもので、パーティションをGUID (Globally Unique Identifier) で管理しています。MBRを採用したハードディスクでは、通常2TBまでしか認識できませんが、GPTディスクでは8ZB (=8,000,000,000TB)まで扱うことが出来ます。

### ▶ GPTディスクの起動

GPTディスクは、従来のBIOSを採用したマザーボードでは起動ディスクとして扱えません。EFI (Extensible Firmware Interface) を採用したマザーボードが必要となります。

ファイナルハードディスク入れ替えが対応しているEFIマザーボードは次のとおりです。

- GIGABYTE 製マザーボード
- ASUS 製マザーボード
- MSI 製マザーボード
- ASRock 製マザーボード
- Intel 製マザーボード

また、Windows の場合、GPTディスクから起動できるのは64bit版のWindows Vista(SP1 以上)、Windows 7およびWindows 8に限られます。

なお、データドライブとして扱う場合(起動ディスクとして使用しない)は、64bit版Windows XP、32bit版Windows Vista、Windows 7およびWindows 8でも可能です。32bit版Windows XPでは、GPTディスクにアクセスできません。

## うまくいかないときは

問 題	原 因	解決方法
システムドライブのスクランが非常に遅い。	セキュリティソフトやデスクトップ検索ソフトなどが動作している。	本ソフトウェアを実行する前に、一時的にそれらのソフトウェアを無効にしてください。
コピー先ハードディスクを検出できない。	コピー先ハードディスクが正しく接続されていない。	正しく接続しなおしてください。
	コピー先ハードディスクの電源が入っていない。	ディスクドライブに電源をオンにします。
	マスタ/スレーブの設定が間違っている (IDE の場合)。	ジャンパピンなどで、マスタ/スレーブを正しく設定してください。
	ソフトウェア RAID で構成されるハードディスクが接続されている。	ソフトウェア RAID で構成されるハードディスクを取り外してください。
	SATA モードが「IRRT」に設定されている。	BIOS 画面で、SATA モードを「AHCI」または「IDE (Compatible)」に変更してください。
PCMCIA ドライブ用の PCMCIA ドライバがインストールできない。	PCMCIA カードデバイスが確実に装着されていない。	PC の電源を切り、すべての PCMCIA カードデバイスを取り外します。PC の電源を入れなおし、ドライブを再度差し込みます。
ハードディスク入れ替え後に、「ハードディスクアクティブプロテクションシステム Logger Module でエラー」が表示される。	入れ替えたハードディスクが“ThinkPad HDD APS Logging Service”機能に対応していない。	コントロールパネルにある「管理ツール」の「サービス」から“ThinkPad HDD APS Logging Service”を無効にしてください。



問 題	原 因	解決方法
ハードディスク入れ替え後に、「指定されたモジュールが見つかりません」が表示される。	ハードディスク入れ替えを実行する際に、Internet Explorerが実行されたままになっていた。	既存のハードディスクのC:\¥Windows¥Downloaded Program Filesにあるファイルのうち、入れ替え先のハードディスクにコピーされていないファイルを手動でコピーしてください。
ハードディスク入れ替え後に、正しく動作しなくなったアプリケーションがあります。	ハードディスク入れ替えを実行する際に、セキュリティソフトやデスクトップ検索ソフトなどがタスクトレイに常駐したままになっていた場合に発生します。	コピーを始める前に一時的にそれらのソフトウェアを無効にしてください。また、本ソフトウェア以外は終了させてから、再度実行してください。または、WindowsPE版を使用してください。 以上の方法でも改善されない場合は、アプリケーションを修復セットアップまたは再インストールしてください。
ハードディスク入れ替え後に、ごみ箱が使えなくなった。	コピー元ハードディスクにおいて、ごみ箱内の一部セクタに異常があった	次の手順でごみ箱を初期化してください。 1. エクスプローラの「ツール」メニューから「フォルダオプション」(Windows Vista/7の場合は、「整理」メニューから「フォルダと検索のオプション」、Windows 8の場合は「表示」メニューから「オプション」)をクリックし、表示タブ内の「保護されたオペレーティングシステムファイルを表示しない」のチェックを外してください。 この設定は、問題が解決したら元に戻してください。

問 題	原 因	解決方法
		<p>2. エクスプローラで、C:ドライブのルートにある [Recycled] または [Recycler] フォルダの名前を変更します(たとえば、「AAA」など)。Windows Vista/7/8の場合は、[\$Recycle.bin] フォルダです。ユーザーアカウント制御画面が表示されたら、[続行] または [はい] をクリックしてください。</p> <p>3. 名前を変更したフォルダを削除します。</p> <p>4. PCを再起動してください。ごみ箱が初期化され、使用が可能な状態に戻ります。</p>
ハードディスク入れ替え後に、Windowsのライセンスが無効になる	本ソフトウェアの実行時にインターネットに接続していた、または一部のファイルがロックされていて、コピーに失敗した	Windows インストールディスクまたは本体に付属している、ライセンスシート記載のプロダクトキーを入力して再認証を行ってください。
入れ替え後のディスクで起動しない	マスタ/スレーブの設定が間違っている (IDE の場合)。	ジャンパピンを確認してください。コピー先をスレーブとして接続してコピーした場合は、コピー先ハードディスクディスクで起動する際に、必ず設定をマスタに変更してください。ジャンパピンの設定方法は、通常、ハードディスク本体または取扱説明書に記載されています。
	Windows アップデートが行われている最中にコピーした。	Windows アップデート後にインターネット接続を止めて、再度コピーしなおしてください。

問 題	原 因	解決方法
入れ替え後のディスクで起動しない	Advanced FormatのハードディスクにWindows XPのシステムドライブをコピーしようとした。	新しいハードディスクのフォーマットを確認してください。
	コピー元ハードディスクに不良セクタが存在する。	Windowsの「チェックディスク」などでエラーチェックを行って正常な状態にしてから、再度コピーしなおしてください。
	本ソフトウェアが対応していないPC、OS、またはハードディスクを使用している。	本ソフトウェアが対応しているPC、OS、およびハードディスクで使用してください。
	コピー先がAdvanced FormatのディスクでUSB HDDケーブルで接続している際、使用しているUSB HDDケーブルがAdvanced Formatに対応していない。	USB HDDケーブルを使用する際は、Advanced Format対応のケーブルを使用してください。または、デスクトップパソコンの場合は内蔵のSATA端子に接続してください。
Windows PE版で実行しているとき、ドライブのフォーマットに失敗する	Windows PE版がハードディスク内の拡張パーティションを正しく認識できない。	Windows版を実行してください。
Windows PE版が正しく起動しない	PCのメインメモリが768MBよりも少ない。	メインメモリを768MB以上に増設するか、Windows版をご使用ください。
起動用USBメモリを作成する際、Windows ADKのインストールが完了しない	古いバージョンのWindows ADKがインストールされている	古いバージョンのWindows ADKをアンインストールしてから、起動用USBメモリを作成してください。

## 本製品の使い方について

本ソフトウェアの使用には、下記の「ライセンス使用許諾契約書」への同意が必要です。

### 「ファイナルハードディスク入れ替え」のご使用前に必ずお読みください。

本使用許諾契約書は、お客様（個人または法人を問いません）とAOSテクノロジーズ株式会社（以下、AOSテクノロジーズ）との間に締結される法的な契約書です。AOSテクノロジーズは、お客様が本使用許諾契約の内容に同意される場合に限り、本使用許諾契約の対象となるソフトウェアを使用することを許諾します。ソフトウェアをインストール、複製、使用することまたはCD-ROMの入ったプラスチックケースのビニールカバーをはがすことによって（ダウンロードによる購入の場合は、製品の購入手続きにおいて、本契約書に「同意する」を押下（クリック）された時点で）、お客様は本使用許諾契約の条項に同意し、使用許諾契約が成立したものとみなしますので、その前に本使用許諾契約をよくお読みください。お客様が本使用許諾契約の内容に同意されない場合、AOSテクノロジーズは、本使用許諾契約の対象となるソフトウェアを使用することを許可いたしません。その場合には、お買い上げ後60日以内に、ご購入を証明するもの添えて、お買い上げ店に商品をご返すようお願いください。引き換えに、ご購入代金を払い戻しいたします。（ダウンロードによる購入の場合には、本契約書に「同意しない」を押下（クリック）してください。購入手続きはキャンセルされ、製品を購入・ダウンロードすることはできません。また、ダウンロード販売は一切性質上、同意のうえご購入された製品の返品・返却は一切できませんのでご注意ください。）

### 使用許諾契約書

#### 第1条 使用権の許諾

AOSテクノロジーズは、本契約記載の条件に従い、「ファイナルハードディスク入れ替え」（以下、本ソフトウェア）に関し、お客様が自己所有するコンピュータ（お客様が自己使用するリース物件またはレンタル物件を含む）における以下の非独占的、再許諾不可能かつ譲渡不可能な権利をお客様に対して許諾します。

- 1台のコンピュータを特定し、その上で本ソフトウェアを使用する権利。
- 本ソフトウェアの媒体破損時に備え、バックアップ用に複製を1つ作成すること。

#### 第2条 著作権等

1. 本ソフトウェアおよびマニュアルに関する著作権、特許、商標権、ノウハウおよびその他のすべての知的財産権はAOSテクノロジーズおよび本ソフトウェアの使用許諾権者へ独占的に帰属します。
2. お客様は、AOSテクノロジーズの事前の承諾を得ることなく、本ソフトウェア、マニュアルおよび本ソフトウェアのプログラクキー（以下、「ライセンスキー」）を第三者へ賃貸、貸与、販売または譲渡できないものとします。かつ、本ソフトウェア、マニュアルおよびライセンスキーに担保権を設定することはできないものとします。加えて、お客様は、AOSテクノロジーズの書面による事前の承諾を得ることなく、お客様の顧客サービス（有償・無償を問わず営利目的または付加価値サービスとして第三者へ提供されるサービス）の一環として本ソフトウェアおよびライセンスキーを使用することはできないものとします。
3. お客様は、本ソフトウェアにつき、リバースエンジニアリ

ング、逆コンパイルまたは逆アセンブルすることはできないものとします。お客様の改造に起因して本ソフトウェアに何らかの障害が生じた場合、AOSテクノロジーズは当該損害に關して一切の責任を負わないものとします。

4. お客様は、AOSテクノロジーズの文書による同意なしに、本ソフトウェアを複製すること（メディアからハードディスクへの複製、本ソフトウェアを含むアーカイブの作成、ネットワークへの送信などを含む）はできません。ただし第1条の2項の場合を除きます。

#### 第3条 保証および責任の限定

1. AOSテクノロジーズは、本契約の締結日から60日に限り、本ソフトウェアのメディアに物理的な欠陥があった場合、当該メディアを無料交換いたします。交換後のメディアに対しては、交換前のメディアに適用されるべき保証期間が適用されるものとします。この場合には、本ソフトウェアに領収書を添えて本ソフトウェアをお買い上げになった販売店あてにお戻しください。なお、ダウンロードによる購入の場合には媒体がございませんので、媒体の代品の提供はありません。
2. AOSテクノロジーズは、前項において明示する場合を除き、本ソフトウェア、マニュアルまたは第4条に定義されるサポートサービスに關して一切の保証を行いません。また、AOSテクノロジーズは、本ソフトウェアもしくはマニュアルの機能またはサポートサービスがお客様の特定の目的に適合することを保証するものではなく、本ソフトウェアまたはマニュアルの物理的な紛失、盗難、事故および誤用等に起因するお客様の損害につき一切の補償をいたしません。
3. AOSテクノロジーズは、第4条1項および2項に記載されるユーザー登録もしくはユーザー登録変更の届出がなされない場合またはその内容に不備がある場合、同社からお客様への通知、郵送およびその他のコンタクトの不達により生じる不利益および損害については、お客様の責任とさせていただきます。
4. お客様が期待する成果を得るためのソフトウェアプログラム（本ソフトウェアを含むがこれに限られない）の選択、導入、使用および使用結果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。本ソフトウェアもしくはマニュアルの使用、サポートサービスならびに第4条3項および4項によりサポートサービスの提供を受けられないことに起因してお客様またはその他の第三者に生じた結果的損害、付随的損害および逸失利益に關してAOSテクノロジーズは一切の責任を負いません。
5. 本契約のもとで、理由の如何を問わずAOSテクノロジーズがお客様またはその他の第三者に対して負担する責任の総額は、本契約のもとでお客様が実際に支払われた対価の100%を上限とします。

#### 第4条 サポートサービス

1. AOSテクノロジーズは、同社が定める手続に従ってユーザー登録を行ったお客様に対し、当該ユーザー登録の日から1年を経過する日までを有効期間として、メール、チャットまたは電話によるサポートサービスを提供いたします。ただし、インターネット接続環境またはメールアドレスをお持ちでないお客様においては、サポートサービスのうち一部が有料となります。

2. お客様は、前項記載のユーザー登録の内容に変更が生じた際には、AOSテクノロジーに対し遅滞なく届出を行うものとします。
3. サポートサービスの提供に関するAOSテクノロジーの義務は、本条1項記載の内容に関する合理的な努力を行うことに限られるものとします。また、AOSテクノロジーは、以下のいずれかに該当するお客様に対してサポートサービスを提供する義務を負わないものとします。
  - (a) AOSテクノロジーが定める手続に従ったユーザー登録を行っていないお客様
  - (b) 前項所定の変更の届出を行っていないお客様または当該変更の届出に不備があるお客様
  - (c) サポートサービスの有効期間にないお客様
  - (d) ソフトウェアを、日本語以外の言語に対応するオペレーティングシステムとでもて使用しているお客様
  - (e) ソフトウェアに関する内容でい質問のあるお客様
4. AOSテクノロジーは、以下の場合、お客様へ事前の通知を行うことなくサポートサービスの提供を停止できるものとします。
  - (a) システムの緊急保守を行うとき
  - (b) 火災、停電等の不可抗力および第三者による妨害等により、システムの運用が困難になったとき
  - (c) 天災またはこれに類する事由により、システムの運用ができなくなったとき
  - (d) 上記以外の緊急事態により、AOSテクノロジーがシステムを停止する必要があると判断するとき
5. お客様は、サポートサービスの有効期間が終了する日までにAOSテクノロジーが定める手続に従いサポートサービス契約を更新することによって、引き続きサポートサービスの提供を受けることができます。なお、サポートサービス契約の更新には別途費用が必要となります。
6. 前各項にかかわらず、AOSテクノロジーは、同社がサポートを終了した本ソフトウェアについては、お客様に対するサポートサービスを提供する義務を負わないものとします。

## 第5条 契約の解除

1. お客様が本契約に違反した場合、AOSテクノロジーは本契約を解除することができます。この場合、お客様は、本ソフトウェア、マニュアルおよびライセンスキーを一切使用することができません。
2. お客様は、本ソフトウェア、マニュアル、ライセンスキーおよびそのすべての複製物を破壊することにより本契約を終了させることができます。この場合、本契約のもとでお客様が支払われた一切の対価は返還いたしません。
3. 本契約が終了するかまたは解除された場合、お客様は、本ソフトウェア、マニュアル、ライセンスキーおよびそのすべての複製物をAOSテクノロジーへ返却するかまたは破壊するものとします。

## 第6条 守秘義務

1. お客様は、(a) 本契約記載の内容、および、(b) 本契約に関連して知り得た情報（本ソフトウェアのライセンスキー、サポートサービスに関連する電話番号、ファックス番号、メールアドレス、URL、ID、パスワードならびにサポートサービスの一環としてコンピュータネットワークを介して提供される情報内容を含む）につき、AOSテクノロジーの書面による承諾を得ることなく第三者に開示、漏洩しないものとし、かつ、本契約における義務の履行または権利の行使に必要な場合を除き方法を問わず利用しないものとします。ただし、国家機関の命令による開示等正当なる事由に基づき開示する場合はこの限りではありませんが、その場合にはAOSテクノロジーに対して速やかに事前の通知を行うものとします。

2. 前項にかかわらず、下記各号に定める事項については前項の適用を受けないものとします。
  - (1) 開示を受けた時に既に公知である情報
  - (2) 開示を受けた後、自己の責に よらず公知となった情報
  - (3) 開示を受ける前から、自己が適法に保有している情報
  - (4) 第三者から、守秘義務を負わず適法に入手した情報
  - (5) AOSテクノロジーの機密情報を使用または参照することなく独自に開発した情報
3. 前各項の規定は、本契約が解除、期間満了またはその他の事由によって終了したときであってもなおその効力を有するものとします。

## 第7条 一般事項

1. お客様は、AOSテクノロジーの事前の承諾を得ることなく、本ソフトウェアを日本国外へ持ち出すことはできません。理由の如何を問わず、AOSテクノロジーからお客様へ通知、郵送およびその他のコンタクトを行う場合（サポートサービス提供の場合を含むが、これに限られない）、当該通知、郵送およびコンタクト等の宛先は日本国内に限定されるものとします。
2. 本契約は、本ソフトウェアの使用許諾に関し、特段の特約がない限り本契約の締結以前にお客様とAOSテクノロジーとの間になされたすべての取り決めに優先して適用されます。なお、AOSテクノロジーは、お客様へ事前の通知を行うことなく本契約の内容、サポートサービスの内容およびその他の告知内容を変更できるものとし、当該変更がなされた場合、従前の本契約の内容、サポートサービスの内容および告知内容は無効となり、最新の本契約の内容、サポートサービスの内容および告知内容が適用されるものとします。
3. 本契約は、日本国法に準拠するものとします。本契約に起因する紛争の解決については、東京地方裁判所が第一審としての専属的管轄権を有するものとします。

## 第8条 Windows PEに関して

1. Windows PEを含む本ソフトウェアは、販売されるものではなく、使用許諾されるものであり、明確に許諾されていない権利はすべてAOSテクノロジーが留保します。
2. Windows PEを含む本ソフトウェアは、起動、診断、ディスタスタリカバリ、セッアップ、復元、緊急サービス、インストール、テスト、設定用ユーティリティプログラムに限定して使用許諾されるものであり、一般的なオペレーティングシステムの代わりとして、または完全に機能するバージョンのオペレーティングシステムの代わりとしてはご使用になれません。
3. Windows PEは現状有姿のまま提供されます。
4. Windows PEを含む本ソフトウェアは、お客様に事前の通知なしに72時間後に自動的にコンピュータが再起動される安全対策がなされています。
5. Windows PEを含む本ソフトウェアに関して、Microsoft Corporation、およびその関係会社は一切の責任を負いません。
6. Windows PEを含む本ソフトウェアに関するすべてのサポートサービスは、AOSテクノロジーが窓口となります。
7. お客様は、Windows PEにつき、適用する法律によって明示的に許諾されている場合を除き、リバーエンジニアリング、逆コンパイルまたは逆アセンブルすることはできないものとします。
8. Windows PEを含む本ソフトウェアは、米国輸出当局の規制の対象となります。

## 索引

## アルファベット

Advanced Format	7, 44
IDE	15
SCSI	15
SSD	7
USBケーブル	13
Windows PE版の起動	22
Windows PE版	2, 6, 10, 12, 16, 25, 34
Windows版の起動	18
Windows版	16, 22, 25, 32

## あ

インタフェース	7
---------	---

## か

隠しパーティション	2
起動用USBメモリ	15
コピー先ハードディスク	33
コピーの実行	41
コピー元ハードディスク	33

## さ

システムディスク	2
診断用パーティション	2
外付け用ハードディスクケース	13

## た

対応ハードディスク	7
ディザスタリカバリ	2
デスクトップPCのハードディスク入れ替え	14

## な

ノートPCのハードディスク入れ替え	13
-------------------	----

## は

パーティションサイズの変更	38
パーティションの削除	39
パーティションの新規作成	39
非対応ハードディスクおよびPC本体	8

## ま

マスタ/スレーブ	15
----------	----

## ら

リカバリ用パーティション	2
--------------	---

## 技術サポート情報

弊社への技術的なお問い合わせは、以下に示すように、ウェブサイト、電子メール、またはチャットをご利用いただけます。

### ▶ よくある質問と回答集

本ソフトウェアのよくある質問と回答集 (FAQ) は、オンラインで利用することができます。

最新情報は、次のWeb サイトをご覧ください。

<http://faq.aos.com/transfer2/>

### ▶ オンラインユーザー登録

ユーザー登録は、技術サポートを受けたり、製品の最新版情報を受け取るなどのために必要です。

[https://www.finaldata.jp/support/new\\_registration.html](https://www.finaldata.jp/support/new_registration.html)

### ▶ アップデートプログラム

最新のアップデートプログラムがある場合は、次のサイトにて提供しています。最新のプログラムを入手後、本ソフトウェアをご使用ください。

<http://www.finaldata.jp/download/download.html#updata>

## ▶技術サポート

ご購入いただいたソフトウェアの操作上のお問合せや技術的なご質問は、AOSテクノロジーズ技術サポートでお受けします。専門スタッフが問題解決のお手伝いいたします。

なお、サポートをお受けになる場合は、下記事項を確認のうえご連絡ください。

- (1) 電源が正しく接続されており、ハードディスクおよびコネクタ類が正しく接続されていますか？
- (2) ご使用のPCは、必要なシステム条件(6ページ)を満たしていますか？
- (3) PCのOS、ドライブ構成、容量、周辺機器の接続状態
- (4) 障害発生に至るまでの操作

Eメール： [irekae@aos.com](mailto:irekae@aos.com)

オンラインチャット： <http://www.finaldata.jp/>

リアルタイムお問い合わせシステム「ライブサポート」で承ります

(受付：祝祭日を除く月曜～金曜 10:30～12:00、13:00～17:00)







**AOSテクノロジーズ株式会社**

<http://www.finaldata.jp/irekae/>

Eメール : irekae@aos.com